

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活法人 エコメッセ

代表者・役職名 氏名 理事長 大嶽貴恵

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

昭島の地産地消のエネルギーを探る

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

以前昭島市内では古紙回収等の資源をしていませんでした。当時生活クラブ生協の組合員が自分たちで資源回収をしていました。その資源回収で集めた資金を基に、拠点となる店舗を既に設立していたNPO エコメッセとの連携でエコメッセ昭島を2006年に設立しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

昭島市外の多摩地域では実際に市民発電所を建設しています。エコメッセ昭島のミッションの一つである市民が参加できる再生可能エネルギーのための資金も店舗運営の中で生み出しています。いよいよエコメッセ昭島以外の昭島市民の顔が見えてきたことでその人たちの連携を深め、一緒に学び、地産地消のエネルギーの可能性(賦存量)を具体的に探りたいため。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

昭島にある地産地消のエネルギーの価値の大事さを具体的に考えていきたいです。そのために昭島の中で、今ある資源の価値と手に届くところの資源の賦存量、循環を専門家と市民が連携し、ソーラーパネルやバイオマス等の設置の可能性についての具体的な活動につなげたいです。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT. 実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME. 事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT. 事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

2016年7月30日・31日、トランジションタウンのフレームワークを用いて昭島の地産地消エネルギーについて探るべく、NPO法人トランジションタウン・ジャパン関係者を講師に招いて研修を実施しました(参加者数11名)。その結果、地産地消エネルギーに関心ある昭島市民による「とらんじしょん昭島」という市民団体がたちあがりしました。10月10日には、エコメッセととらんじしょん昭島が主体となり、市民が目に見える形で太陽光エネルギーを体験するイベント(太陽光を蓄電し、その電力で映画を上映)を実施しました(参加者数32名)。更には、市内のバイオマスエネルギー実施可能性についても報告書を作成しました。以上、再生可能エネルギーについて関心ある市民の連携づくり、及び、企画実施や報告書作成を通じた、市内での再生可能エネルギーの認知度アップや、実施可能性についての検討を行いました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

昭島市に適した、恒常的な再生可能エネルギーの実現については、更なる調査が必要です。また、エコメッセ以外に、とらんじしょん昭島という地産地消エネルギーに関心ある市民団体がたちあがりしましたが、市内での再生可能エネルギーの認知度の更なる高め方およびより広範な市民の連携が課題です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



